



Application Service GatewayThunder Series

# Cloud Proxy 設定ガイド 1.6版

Document Number : D-030-01-0074-06-JP

Document Number : D-030-01-0074-06-JP  
Date : 2017/12/8

この文書及びその内容に関し如何なる保証をするものでもありません。  
又、記載されている事項は予告なしに変更されることがあります。

© A10 Networks, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.  
A10ネットワークス株式会社  
東京都港区六本木3-2-1 住友不動産六本木グランドタワー33F  
TEL 03-4520-5700  
E-Mail [jjinfo@a10networks.com](mailto:jjinfo@a10networks.com)

# 更新履歴

| Document No.        | Date       | 評価ACOS<br>バージョン | Comments           |
|---------------------|------------|-----------------|--------------------|
| D-030-01-0074-02-JP | 2016/12/26 | 4.1.1-P1        | 1.2版 AAM追加         |
| D-030-01-0074-03-JP | 2017/2/3   | 4.1.1-P1        | 1.3版 GSLB修正        |
| D-030-01-0074-04-JP | 2017/3/13  | 4.1.1-P1        | 1.4版 テナント認証追加      |
| D-030-01-0074-05-JP | 2017/7/25  | 4.1.1-P3        | 1.5版 AAM追記         |
| D-030-01-0074-06-JP | 2017/12/8  | 4.1.1-P6        | 1.6版 シングルパーティション追記 |

## 目次

### 1. ソリューション紹介

- クラウドサービス利用の課題
- 一般的な対策
- クラウドプロキシによる対策

### 2. 設定ガイド

- コンフィグデザイン
- ネットワーク構成図
- 明示型Cloud Proxy 設定手順
- UDPトラフィック制御
- UDPトラフィック制御 設定手順
- 冗長化 ネットワーク構成図
- 冗長化 設定手順
- 全体コンフィグ

### 3. 多機能連携

- DCファイアーウォール
- GSLB
- AAM

### 4. 拡張ソリューション

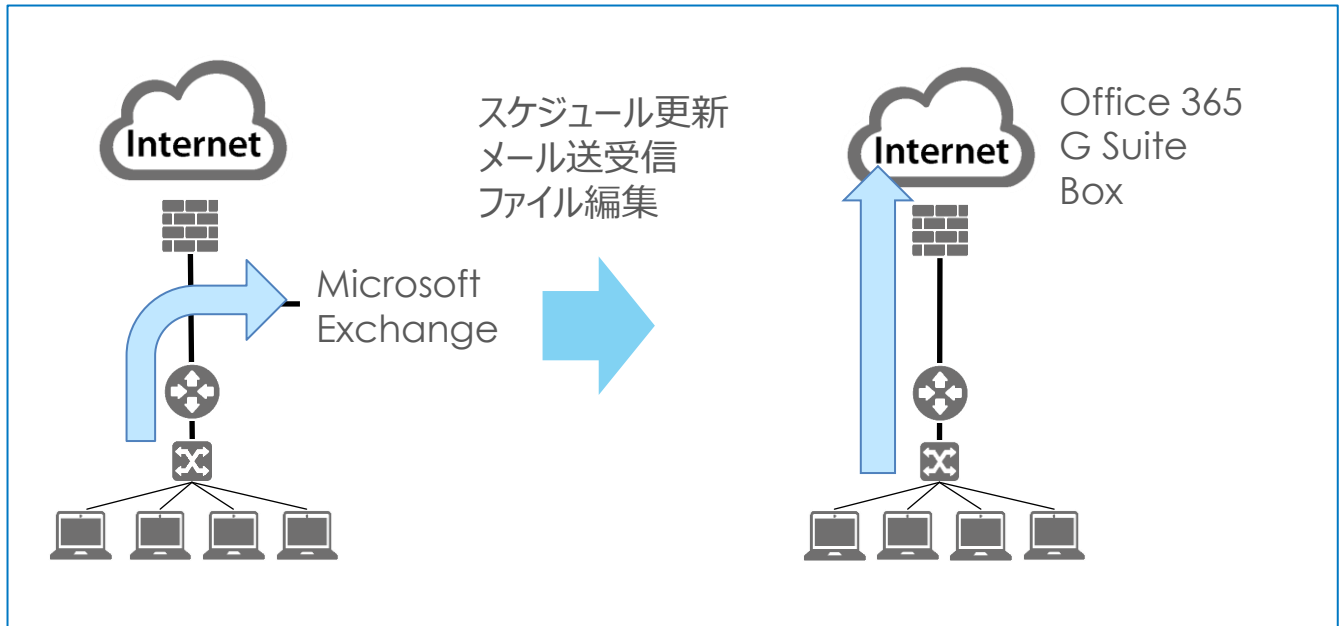
- SSLインサイトを使ったテナント認証ソリューション
- SSLインサイトを使ったテナント認証（ワンアーム、シングルパーティション）
- SSLインサイトを使ったテナント認証（ツーアーム、シングルパーティション）

# Cloud Proxy ソリューション紹介

A100

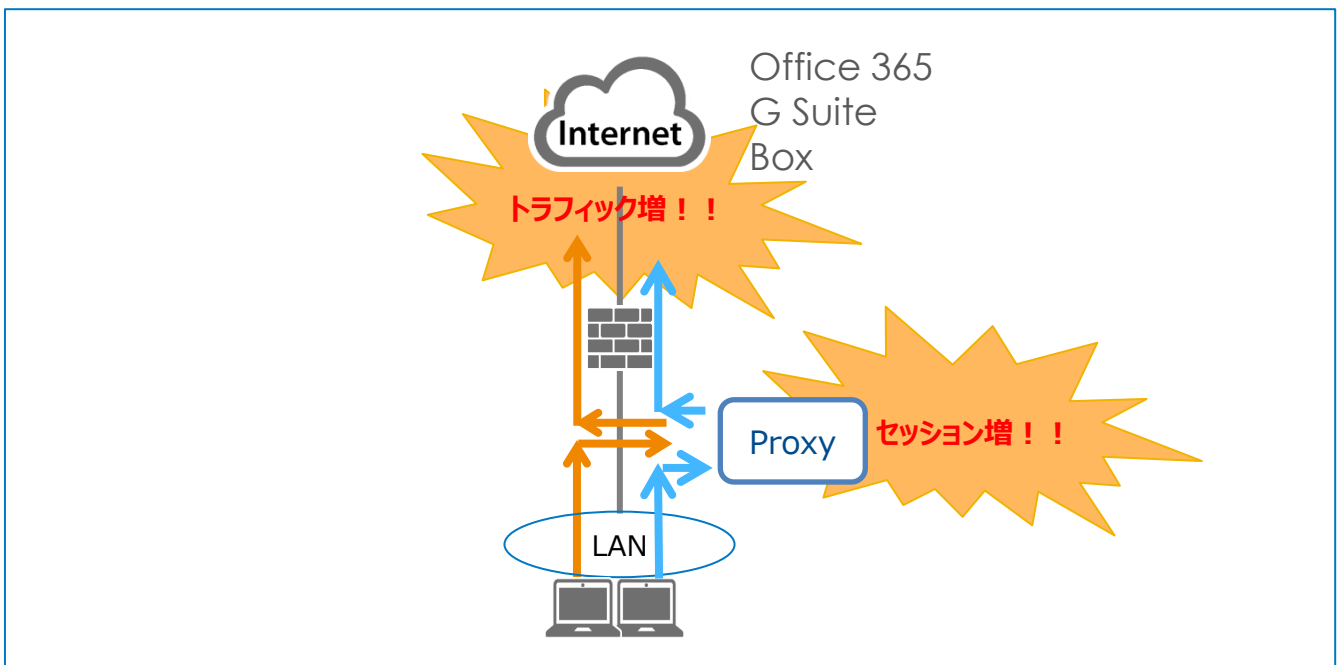
# クラウドサービス利用の課題

- クラウドサービスの利用により、社内LANに閉じていたトラフィックがインターネットへ行くようになります



- これにより以下の問題が懸念されています

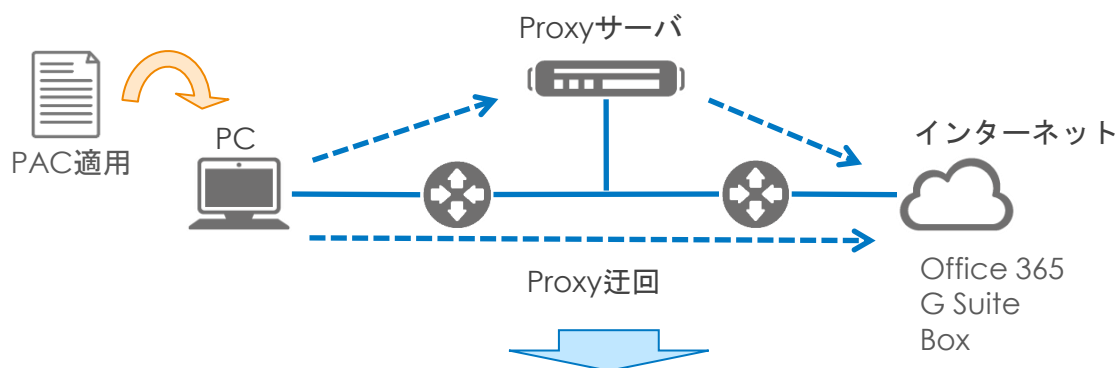
- クラウド利用時のセッション増によりProxyの処理負荷が増加
- クラウド利用時のトラフィック増によりインターネット回線の帯域が逼迫



# 一般的な対策

## Proxyセッション増への対策

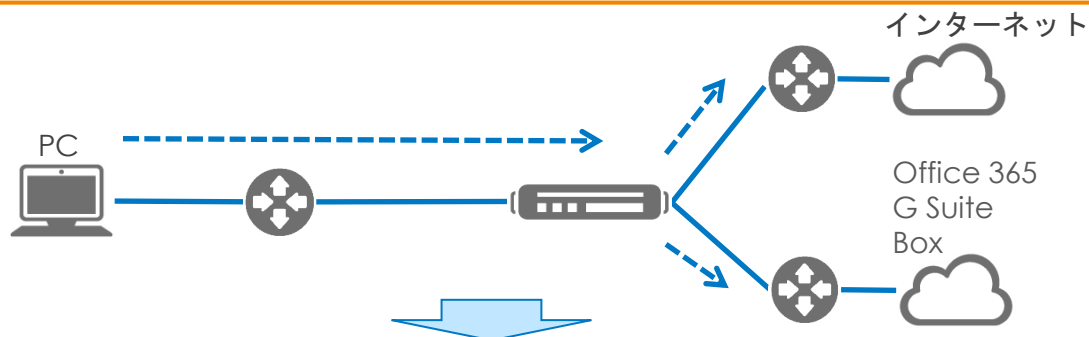
PCに Proxy PAC ファイルを配布し、クラウドサービス宛の通信を Proxyから迂回させる



サービスのドメイン情報に更新があると個々のPCのProxy PACを更新する必要があるため、この運用負担が大きい。  
PCにProxy PACに上手く適用されない可能性もある。

## インターネットトラフィック増への対策

新規にインターネット回線を増設し、クラウドサービスのトラフィックをその回線に分散する

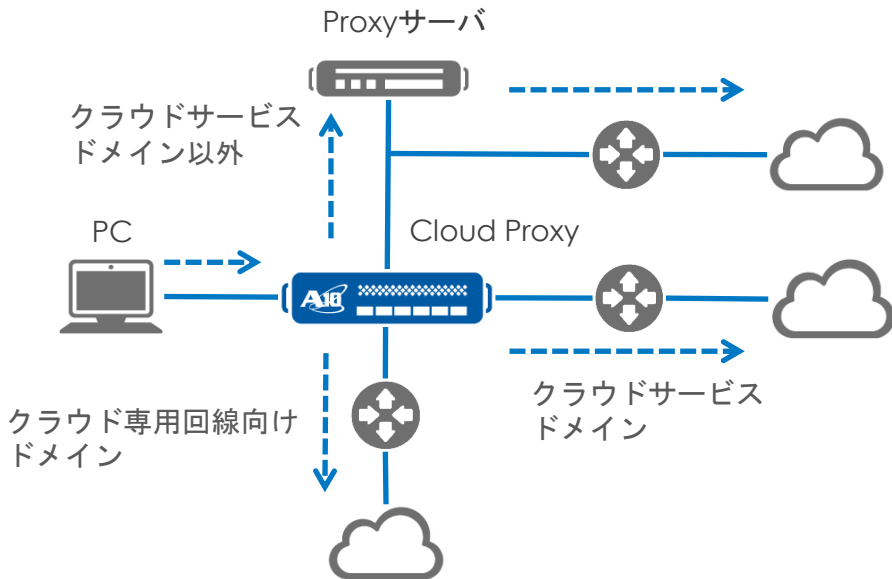


クラウドサービスを識別しインターネット利用回線に振り分けることが難しい。(クラウド上のサーバのため宛先IPアドレスが頻繁に変わる)

# クラウドプロキシによる対策

- PCのプロキシをCloud Proxyに設定

宛先サービスのドメイン名に従ってトラフィックを制御



プロキシ接続時の宛先ドメイン名に従って振り分けを行う  
クラウドサービスのドメイン → インターネット回線に振り分け  
クラウドサービスのドメイン以外 → Proxyへ振り分け  
※クラウドサービス専用回線がある場合にはそれを識別し振り分け

- Cloud Proxy導入によるメリット

- 面倒なPACファイルの配布、更新が不要
- Proxyとして圧倒的なコストパフォーマンス
- クラウド専用回線へのルーティングが不要
- 多くの拡張機能
  - Proxy負荷分散
  - ファイアウォール機能の同時利用 (CFWモデル)
  - SSL可視化 (CFWモデル、SSLiモデル)

# Cloud Proxy設定ガイド

A100